

平成27年度 教育事業

第30回 山から君へのメッセージ

～ 高隈連山へのチャレンジ～

- 1 趣 旨 冬の高隈山登山を通して、自然の厳しさを体感し、目標に向かって頑張りぬく力と協力心を培い、友情の輪を広げ、たくましく実践力のある青少年を育てる。
- 2 期 日 平成27年12月25日(金)～12月28日(月)
- 3 参加対象 小学校5年生～高校生(不登校など心に悩みをもつ児童・生徒を含む。)
- 4 募集定員 24名
- 5 参加者 24名(小学生12名 中学生7名 高校生5名)
- 6 指導者 南竹 成己 氏(鹿児島県山岳連盟)
新杵 希美 氏(鹿児島県山岳連盟)
国立大隅青少年自然の家職員
ボランティア13名
- 7 日 程 (宿泊場所)



	12月25日(金)	12月26日(土)	12月27日(日)	12月28日(月)
活動内容	9:00 受付	5:00 起床・朝食	6:00 起床・朝食	6:00 起床・清掃等
	9:30 出合いのつどい	テント撤収	テント撤収	6:30 朝食
	10:00 登山学習	7:00 25番出発	8:00 34番出発	8:30 キャンプ場発
	11:30 講義 「健康・体調管理」	10:00 御岳	8:40 妻岳	9:15 到着式
	12:00 レストラン昼食	11:20 妻岳分岐点34番着	9:30 二子岳	9:30 入浴
	13:00 マイカス移動	テント設営	11:00 平岳	10:30 感想発表 アンケート記入
	14:00 26番	12:30 妻岳分岐点34番発	12:00 横岳	11:00 別れ
	15:00 25番着	13:00 スマン峠	13:30 31番	11:20 解散
	15:30 テント設営	14:30 大笹柄岳	14:30 21番	
	16:30 野外炊飯	17:00 妻岳分岐点34番着	15:05 21番発	
19:00 ミーティング・班会	17:15 野外炊飯	16:00 キャンプ場着		
20:00 就寝	19:00 ミーティング	17:00 夕食		
	20:00 就寝	18:30 交流会		
		20:00 ミーティング		
		22:00 就寝		

8 事業運営について

- (1) 昨年度同様、山中2泊を計画することで2・3日目の登山距離の偏りを減らし、参加者の体力の負担軽減と意欲・体力の持続を測り、参加者が高隈連山を踏破して達成感や成就感を味わわせるようにした。
- (2) 参加者が安全に活動できるように、1日目に講義を計画して登山や健康の学習を計画した。また、学習したことを活用して体調管理ができるように、就寝時刻を早めに設定することで睡眠時間を十分に確保し、体調を整えて元気に安全に活動ができるようにした。
- (3) 活動は、班を基本にして行い、自分の役割を果たすことや目標に向かって協力することができるようにした。また、班付きボランティアを意図的に配置して、個に応じた支援が手厚くできるようにした。

9 事業の実際

- (1) 1日目の午前中は、登山に関する知識や健康管理、パッキングや装備の確認をした。午後からは、1泊目の野営地まで登山を実施した。短い距離ではあったが、実際に重い荷物を背負って登ることの大変さや班の一員としての集団行動など体験を通して学ぶことができた。また、野営地ではテント設営方法や食事作りに必要な道具の使い方などを学び、2日目以降に生かせるようにした。



(2) 2日目は、高隈山系で一番標高の高い大笹柄岳の登山を行った。まずは、御岳を目指して登った。山頂では絶好の天気恵まれ、素晴らしい景色や1つ目の山を登りきったことに感動する声が上がっていた。後半は、野営場所である妻岳分岐点に荷物を下ろし、大笹柄岳へ向かった。実際に登山をしながら、高隈の自然や仲間の良さに触れることができた。



(3) 3日目は、妻岳分岐点から妻岳・二子岳・平岳・横岳と縦走を行った。途中には急斜面やロープなどで登る岩場もあったが、班内で自然に手を貸したり、声を掛け合ったりしながら乗り越えることができた。後半は急な下りが続いて、脚への負担も大きくなっていったが、みんな無事にキャンプ場へ到着することができた。夜はキャンプファイヤーを行い、スタッフやボランティアを含め参加者の交流を深め、楽しい思い出の一時にすることができた。最後には、参加者全員から一言感想の発表があり、自分の言葉で感じたことをしっかり発表することができていた。



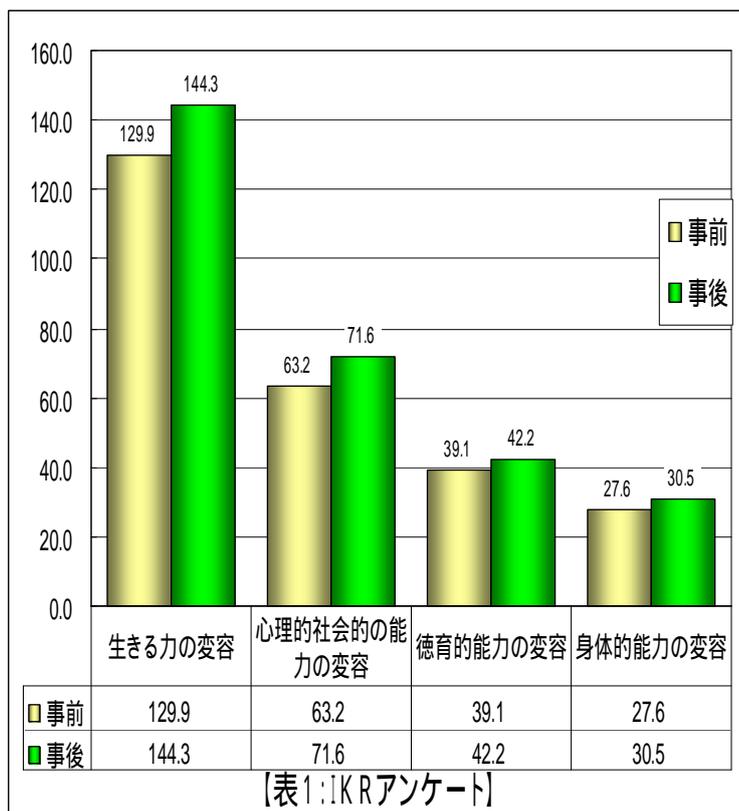
(4) 4日目は、キャンプ場から本館までを歩き、高隈連山縦走のゴールを果たした。自分の脚で到着したことによってやり遂げた喜びがあふれていた。感想の中に踏破できた理由として、仲間やスタッフの助けや励ましがあつたことが多くあげられていた。また、自分の頑張りを認めたり自信を深めたりする向上的変容も見られた。



10 IKRの結果(表1)

生きる力の変容については、事前と事後において、14.4ポイント向上し、有意差が見られた。中でも「前向きに物事を考えられる」「自分のことが大好きである」「いやなことはいやとはっきり言える」「先を見通して、自分で計画が立てられる」など心理的社会的能力の向上が大きい。また、徳育的能力では「いやがらずによく働く」「花や風景など、美しいものに感動できる」といった内容で向上が見られた。身体的能力では、「早寝早起ができる」が1ポイント以上向上した。

山中泊を含む3泊4日の厳しい活動や生活の中で、自分の力で歩き、仲間と協力し、仲間に支えられて、最期まで達成できた体験が、それぞれの項目の向上に至ったと考えられる。



11 参加者の感想

今日はもう3日目だ。豚汁とご飯を食べた時は、本当に泣きそうになった。正直何度も来なければよかったと思った。しかし、今になって考えると最高の日だったと思う。よく修学旅行の後に「こんなこともあったなあ」とぼんやり思うことがあり、その度に「なんとなく行っただけだったなあ」と感じる。でも今日は違う。カバンについた汚れも、この足にできたマメも、自分がしっかり足を踏みしめて生きていた証だ。なんとなく生きていただけじゃない。それをこの胸でしっかり認識できただけでもとても良かった。

今回は本当に楽しくて、悩みもいろいろありましたが充実した4日間でした。いろんな人から「ありがとう」と言われて、とっても嬉しかったです。周りのたくさんの方々を支えてもらい、自分に自信ができました。もっと経験を積んで、いろんなことにチャレンジしたいです。



最終日、あっという間の4日間が終わろうとしている。あの日の自分を振り返ってみると、自分が好きではなく、とても消極的だった。でも今は違う。自分に自信をもって前向きになったのではないかと思う。キャンプファイヤーのときも言ったように、初めての参加でとても不安だった。でもみんなが支えてくれたから、がんばることができたと思う。みんな、楽しい思い出をありがとう。みんなのことは一生忘れないよ。

この「山から君へのメッセージ」に参加して、「協力」ということの大切さを実感した。一人でテントを運び、一人で食材を運び、一人で登る気力を持つことは絶対にできなかったであろう。班のメンバーや指導者、ボランティアの皆様にはとても感謝したい。寒く、辛く、痛いことは幾度となくあったが、その都度励ましてくれて嬉しかった。とても自分のためになり、仲間への見方を変えてもらった最高の4日間だった。

12 成果

真冬の高隈連山縦走は、子供たちにとって、かなり困難な内容であるが、指導者の連携を密にして、入念な事前の準備や緊急対応時の備えを十分に行っていたことで、全員が無事にプログラムを終了することができた。

今回は各班に高校生が入ったことで、スタッフリーダーとの連絡や班の取りまとめがスムーズにでき、全体的に計画していた時間よりも早目の行動ができた。

重い荷物を背負って高隈連山を縦走する困難な活動を通して、子供たちの自己成長や助け合う心を育てることができた。

今回、参加者が転んで、途中病院に搬送することになったが、事前に救助ルートの確認を行い、本部との連携体制を整えていたため、病院診察後、隊に合流する過程がスムーズにできた。

